

### 弓道部

コロナ禍にもめげず、しっかりと前を向き、伝統の火を絶やさぬよう奮闘している弓道部の面々。的を射抜くときの集中力は、今後の人生においても大いに役立つことでしょう。

初心者大歓迎。

弓道は何歳からでも始められる！

今の1年生がちょうど60代目に当たる弓道部は、東京都市大学の課外活動の中でもとりわけ長い歴史を持つ団体です。

世田谷キャンパスを本拠にしていますが、横浜キャンパスや等々力キャンパスの学生も参加し、現在1年生から3年生まで28名の部員が活動しています。弓道にはいくつかの流派がありますが、都市大は創部以来、日置流（へきりゅう）印西派に所属。初心者は日置流の“斜面打起し”と呼ばれる射法を指導されます。「ただ日置流はどんな流派も受け入れるという考え方。たとえば他流派の弓道経験者の場合、入部してから日置流に改める必要はありません」と説明してくれたのは部長を務めた3年生の原奨馬さん。実際彼を含め、今回集まった4名のうち3名が小笠原流の弓道経験者で、日置流は大学に入ってから弓道を始めた2年生の許斐律さんのみでした。

ところで大学から弓道を始めて、経験者と同じように大会な

メディア情報学部  
情報システム学科  
2年・部長  
許斐 律さん

工学部  
機械工学科 3年  
岩崎 幹也さん

工学部 都市工学科  
3年・前部長  
原 奨馬さん

メディア情報学部  
情報システム学科  
3年・女子主将  
西根千晴さん

どで活躍できるようになるのでしょうか。「もともと高校で弓道部があるところが少ないので、うちの部も多くは未経験者です。監督やコーチが基礎から丁寧に指導してくれるため、やる気さえあればどんどん上達しますよ。ここにいる許斐さんもみるみる腕をあげ、次期部長をやってもらうことになりました」（原さん）。

ちなみにその許斐さんは1年生の秋に入部。「姉が弓道をやっていたことで前から興味があったんです。実際やってみるととても奥深い競技ですね。弓を引いてるときにこれじや的に当たらないなとわかる瞬間がある。悪いのは姿勢なのか、筋肉の使い方なのか、気持ちの持ち方なのか、そうしたメカニズムを解析するのが面白いんです」（許斐さん）。



2019年、クリスマスの日に行った忘年会の模様。部員みんなで会食できる日がまた来ればいいですね。



駒沢オリンピック公園の弓道場での練習風景。外部の弓道場は予約を取るのがなかなか大変です。